

ワークショップ B：内丹気功の対人援助 丹を養う

このセッションでは、対人援助にあたっての援助者の心身を整えることを目的として、自身の心身を整え、他者に働きかけることのできる「肚」をつくることを目指した気功的なからだ作りを体験的に学んでいただこうと考えています。内丹気功は単に身体に気を通し、ゆったりとリラックスした身心を生み出すことだけにとどまらず、身体の気のめぐりをとおして丹田の感覚を養い、自身の中心軸を大地にしっかりと根付いたものにしていくことを目指すものです。この世界は陰陽の気のダイナミックな動きに満たされ、同時に、そのなかに存在する私たち自身も、その身体の内にも豊かに流れる気を湛えています。大きな気の流れに身をまかせつつも、自身の身体内の気の周流にも目を向け、自分自身をこの世界に定位する。そうすることで、はじめて、他者に開かれた自分が生まれるのだらうと思います。

【講師略歴】

濱野清志

1956年 神戸生まれ

京都大学法学部および教育学部を卒業後、京都大学大学院に進み河合隼雄、山中康裕のもとで臨床心理学を学ぶ。京都大学助手を経て、九州大学助教授、2002年4月から京都文教大学教授。現在、京都文教大学臨床心理学部教授。臨床心理士。京都大学博士（教育学）。主な著書に『覚醒する心体』新曜社、『日本の心理療法 身体篇』（秋田巖編）新曜社

大野雄亮

1980年生。大学在学時より、心理学・精神医学に興味をもち、独学で勉強を開始。ユングのトランスパーソナル心理学の世界の影響から、東洋の禅・気功・太極拳を開始。NLP（神経言語プログラミング・認知科学）の研究のため、「ヴィパッサナ瞑想」を、地橋秀雄氏より学ぶ。他、津村喬氏（NPO法人 気功文化研究所所長）より気功の教えを受け、長年、気功と心理学の統合を研究。ミヒャエルエンデの『モモ』に、その理想を見る。気功の本質は「調和・循環・バランス」と理解し、ホリスティック教育を中心に、元気・活気を身にまとう方法を提供している。